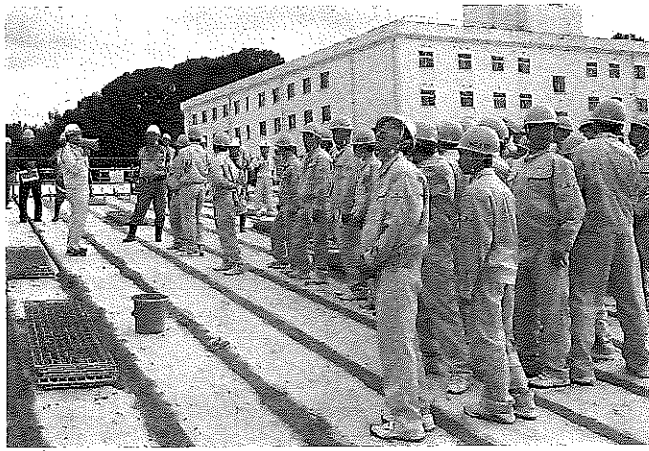


建設業の魅力触れる

加治木工高生現場見学

建協加治木支部



橋の上から作業の様子
を見学する生徒ら＝霧
島市の現地

県建設業協会加治木支部(塚田洋一支部長)は19日、加治木工工業高校生を対象に現場見学会を実施した。地域に必要な道路や河川、橋梁など実際の現場を見学して、建設

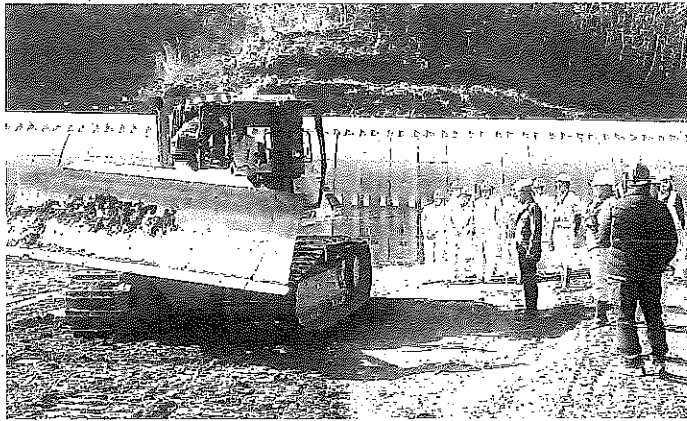
業の役割や魅力に触れた。見学会は、次代を担う高校生に地元建設業への就職を促進しようと毎年実施。この日は、土木科1年生40人(男子39人、女子1人)が参加。県始

良・伊佐地域振興局建設部の関山智幸技術主幹、新原悠太郎土木技師、同支部から末重堅司理

事、福永和則監事、森園秀人事務局長が同行した。

火山砂防・霧島川工区の現場(霧島市)では、砂防堰堤がある場合、ない場合との比較ができるジオラマ模型を使用し、被害がどれだけ違うかを再現。生徒も実際に水を流し、砂防の重要性を学んだ。また、街路・新町線(同)では、大規模な橋梁現場を間近に見て、その迫力に感動した様子だった。生徒からは「仕事の大変さやすごさに感動しました」「普段入ることのできない現場を見学できて、とてもいい経験になりました」などと感想を述べた。

末重理事は「将来の選択肢に建設業を考えるきっかけになれば」と述べ、福永監事も「建設業のやりがいや魅力を感じてもらえたのでは」と話した。



鹿屋工高生が現場見学

ICT 操作性を実感 建機体験

鹿屋支部・大隅河川
建設協会の共催

県建設業協会 鹿屋支部（谷口幸司支部長）と九州地方整備局 大隅河川国道事務所（吉柳岳志所長）の共催による現場見学会が18日、志布志市の東九州自動車道の現場で開かれた。写真。

鹿屋工業高校土木科1年生40人が参加し、普段入ることのできない現場内の見学会は、地元建設業への就職を促進しよう！と毎年実施しており、今回で26回目。谷口支部長（肝付土建）をはじめ、支部役員や事務所の担当職員なども参加して、東九州自動車道（志布志、大崎）小牧地区（第3工区）改良（国基建設）の現場で実施した。

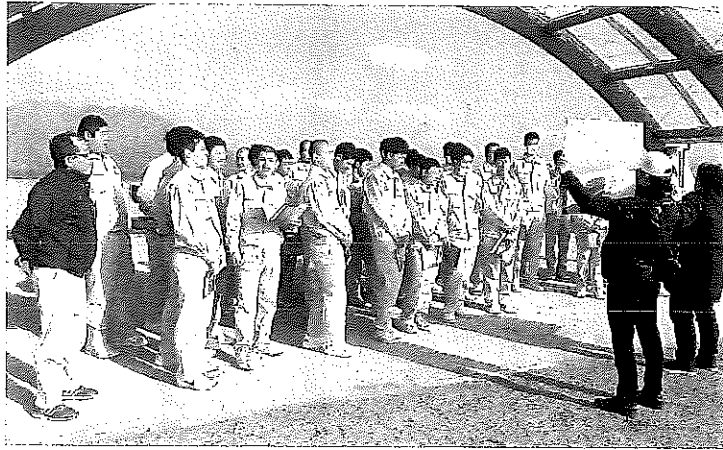
現場では、工事概要などを担当者から説明を受けたほか、ICT施工のビデオ講習も実施。最前線のICT施工現場がどのように変化したかを学んだ。また、建機の試乗体験では、担当者の補助を受けながらバックホウなど自分で操作を行い、その操作性の良さなどに

感激の声をあげていた。谷口支部長は「担い手確保の観点からも、地元で1人でも多くの人材が残ってもらえれば幸い」と話した。

鹿工高校生招き見学会

技術者目指し学ぶ

協



県建設業協会(藤田護会長)は18日、工事などが進む県内3カ所の現地

見学会を開いた。迫力ある重機や高い施工技術など現場の臨場感を堪能した生徒たちは、憧れの技術者に向けて一歩近づいた。

見学会は南

地元の構造物の特性など理解できた見学会＝鹿児島市の現地

さつま市の国道226号に架かる高崎山7号橋や笠沙トンネル工事の現地などで開催。県内就職を希望する学生も多い中、地元の現場や構造物を肌で感じることは将来にとって貴重な財産となる。

このうち、笠沙トンネルの現場では冒頭、施工概要を説明。実際に動く重機や壮大なスケールの現場を目の当たりにした生徒たちは終始興奮していた。

現場責任者を志す有村ひなのさんは「大変そうなお仕事だと思いがやがやいを感じる事ができると思う」と胸を膨らませる。

このほか、鹿児島市のマリポートかごしまでは、同施設のこれまでの変遷や計画を推進するかごしまクルーズターミナ

ルの施設概要などに耳を傾けた。